

大学の研究データガバナンスと研究活動： 実践と課題

松原 茂樹
(名古屋大学情報基盤センター)

プロフィール

松原 茂樹（名古屋大学）

基盤整備

情報基盤センター / 情報戦略室 / デジタルユニバーシティ室

附属図書館研究開発室 / 学術データ基盤整備部会

全国展開

AXIES 研究データマネジメント部会

研究データエコシステム構築事業

研究活動

自然言語処理（言語の理解と生成，知識の獲得と推論）

デジタルライブラリ（eサイエンス，学術情報処理）

研究内容の一例

- 研究データの**オープンアクセス加速化**に向けて
 - 現存する研究データを“**Findable**”に！
 - 公開された研究データを掌握し、汎用リポジトリに**メタデータ**を添えて格納

学術論文テキスト

requirement is not as strict as that in human languages.
²In our experiments, we extract the antonym dictionary from the WordNet lexicon <http://wordnet.princeton.edu/>.

1. テキストから発見する
(= **識別子**を取り出せる)
2. テキストから情報を入手する
 1. 研究データの**名称**を特定
 2. 研究データの**種別**を判別
 3. 研究データの各種情報を抽出

研究データのメタデータ

識別子	http://wordnet.princeton.edu
名称	WordNet
作成者	George A. Miller
出版機関	Princeton University, Cognitive Science Laboratory
種類	Dataset
用途	word sense disambiguation, query expansion, clustering

データリポジトリに格納

（トークの前提）研究室の活動と構成

• 研究方略の典型

- 既存データセットを入手・加工，または、新規データセットを作成
- 言語モデル学習やコーディングなどにより、新規の技術を開発
- 開発した技術を評価用データセットに適用し、その効果を検証

• 研究メンバー

- 教員（1～2名），学生（10数名），共同研究者（数名）

• 研究プロジェクト

- 研究室内で **10** 数個のプロジェクトを設置し研究ミーティングで進捗を共有
- 学生と教員を含んだ **3** 名以上のメンバーで構成
- 研究室全体でプロジェクトを超えたディスカッション（ゼミ，セミナー）

• 成果発表

- 学会発表，ジャーナル論文発表，卒論・修論・博論，（+研究データ）

研究活動で生じる研究データ

データ作成, コーディング, 実験

- データセット, 入出力データ, コード, 実験記録

研究ミーティング, ゼミ, セミナー

- 報告資料, 参考文献, 出力データ

学会発表, 論文発表

- スライド, ポスター, ビデオ, 論文, データ (保存, 公開)

「研究室」のルール

- **メンバー管理**の研究データ：研究公正 のためローカルディスクで保存
- **研究室管理**の研究データ：
 - 共有 のため大学クラウドで保管
 - 利活用 のため  GakuNin RDM で保管

日常活動（データ保管）

- 【メンバー】PC/クラウド
（個人/研究室/大学提供）
- 【研究室】クラウド
（大学提供）

成果発表（データ利活用）

- 【研究室】 GakuNin RDM
（論文，スライド，データ）

離籍（データ保存）

- 【メンバー】ローカルディスク（コールド）

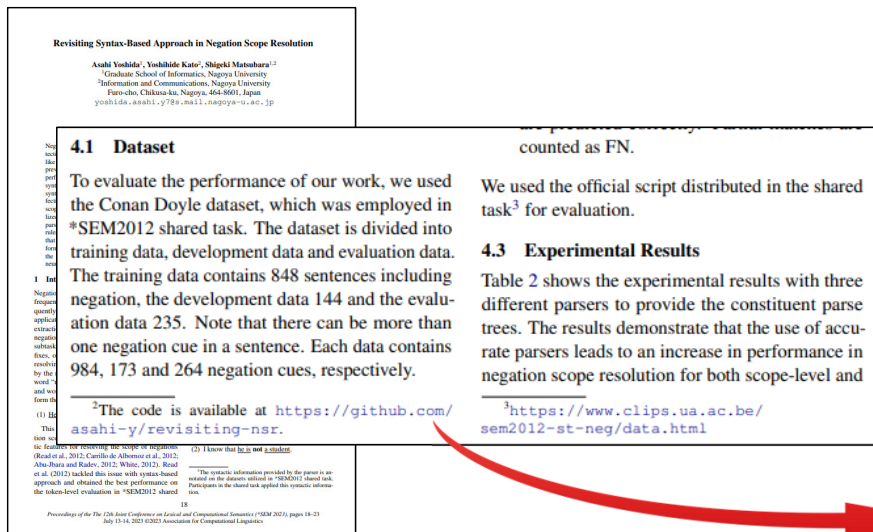
Matsubara Lab	ファイル	Wiki	メタ
-	publications		
+	2025		
-	past		
+	2018		
+	2019		

Matsubara Lab	ファイル	Wiki	メタ
-	public_data		
-	2024		
-	wada		
-	jcdl2024_wada		
	dataset.zip		

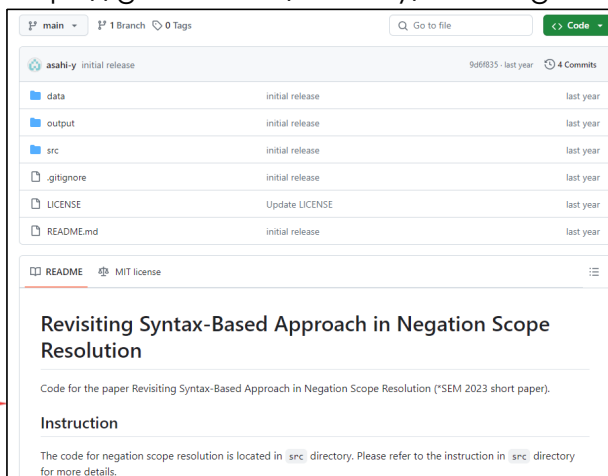
「分野」のポリシー

- 論文の著者らの**研究データを公開**

- 研究データ**：データセット, コードなど
- 公開先**：（多くは） **GitHub** ※コード等の保存・公開プラットフォーム
- 論文での対応**：論文テキストに公開先 **GitHub** の URL を掲載



<https://github.com/asahi-y/revisiting-nsr>



Yoshida, A. et al.: <https://aclanthology.org/2023.starsem-1.3>

「大学」のガイドライン

・研究データの管理・公開・利活用ガイドライン^[2025.3]

<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/html/research-data-guidelines-open/>

- ・研究データ管理責任者（≡ PI）の役割と責任
- ・研究サイクル（**準備**→**実施**→**整理**）に沿った項目設定

1. ガイドラインの位置付けと適用範囲

2. 研究の準備

- ・データ管理責任者の役割 /データ管理計画 DMP/

3. 研究の実施

- ・研究データの保管 /ストレージ, 個人情報, データ倫理, 共同研究/
- ・研究データの共有 /データセキュリティ, 利益相反マネジメント/

4. 研究成果の整理

- ・研究データの保存 /研究公正, データ10年保存/
- ・研究データの公開 /機関リポジトリ, データ公開基盤/
- ・研究データの利活用 /知的財産, 教員データベース/

5. 参考情報

「大学」のポリシー・ガイドライン（保存，公開）

・研究データの**保存**

・名古屋大学 研究不正防止策

<https://www.aip.nagoya-u.ac.jp/risk-management/fair/fair>

- ・研究データ10年保存の**実効性**
- ・査読付論文の責任著者（≒PI）は、
大学が提供する **研究データ保管システム**に研究資料を保存
- ・査読付論文とその根拠データを保存

・研究データの**公開**

・名古屋大学 学術機関リポジトリ

<https://nagoya.repo.nii.ac.jp/page/data>

- ・**リポジトリ登録申請フォーム**に
メタ情報を記入
- ・研究データをアップロード



学術研究・産学官連携推進本部
Academic Research & Industry-Academia-Go

研究データ保管システムの利
用について（学内専用）

研究データ保管システムの利用方法につ
いて、ご案内します。

「研究室・分野・大学」の研究データガバナンスの実践

・ 成果発表にともなう行動

- ・ 仕様の異なるメタ情報を作成し当該ファイルをアップロード



データ管理計画（DMP）と研究データガバナンス

- 研究データの管理・公開・利活用ガイドライン[2025.3]

<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/html/research-data-guidelines-open/>

- 研究データ管理責任者（≡ PI）の役割と責任
- 研究サイクル（準備→実施→整理）に沿った項目設定

1. ガイドライン
2. 研究の準備
 - ・ データ管理
3. 研究の実施
 - ・ 研究データ
 - ・ 研究データ
4. 研究成果の整理
 - ・ 研究データ
 - ・ 研究データ
 - ・ 研究データ
5. 参考情報

2. 研究の準備

2.1 研究データ管理責任者の役割

研究データ管理責任者とは、研究グループ内の大学構成員のうち、研究データの管理、公開、利活用について統括的な権限と責任を有する者をいう。研究グループの代表者であるPrincipal Investigator（PI）が想定される。研究グループに必ず研究データ管理責任者を配置すること。研究データ管理責任者が本学を離籍する場合には、研究データを管理する者が不在にならないように離籍前に対策を講じること。

2.2 データ管理計画の作成

データ管理計画（Data Management Plan（以下、「DMP」という。）とは、研究データの保管、共有、保存等の管理計画をいう。研究データ管理責任者は、DMPを作成し、研究グループ内で保有し、必要に応じて適宜、更新すること。

データ管理計画の作成

データ管理の**基本方針**（項目案と入力例）

・プロジェクト情報

- ・ 研究データ管理責任者：松原
- ・ 研究グループメンバー：該当メンバー
- ・ 研究期間／研究助成機関：該当期間・機関
- ・ 研究プロジェクト名：課題名など

・研究データ整理方法

- ・ **研究データ命名規則**：？

・データ格納場所と共有設定

- ・ **保管**：個人PC／NAS／クラウド
- ・ **共有**：商用クラウド／GakuNin RDM
- ・ **保存**：研究データ保管システム／ローカルDD
- ・ **公開**：GitHub／機関リポジトリ

・DMPメタ情報

- ・ 作成日時：該当日時／作成者名：松原

データ管理の**実施計画**（項目案）

- ・ 研究データ名
- ・ タイプ分類
- ・ 個人情報（とその対応）
- ・ 人を対象とする研究（とその対応）
- ・ 機密情報（とその対応）
- ・ 知的財産（とその対応）
- ・ 非デジタル形式
- ・ 保管・共有・保存方法
- ・ 公開レベル（一般/限定/非公開）
- ・ データ所在

(課題 1) 研究データの保存・公開手続きの簡素化

- 成果発表にともなう行動の在り方
 - (案) **GakuNinRDM** を起点とした保存と公開へ



(課題 1) 研究データの保存・公開手続きの簡素化

- 成果発表にともなう行動**の在り方 (理想)**
 - (ニーズ) **GakuNinRDM** を起点とした保存と公開
 - 研究公正のための研究データ10年保存の機能を装備
 - (ニーズ) 分野別リポジトリから機関リポジトリへの**メタデータ変換**



(課題2) 研究データガバナンスのための権限制御

- 研究データの**アクセス権限**の**適切**かつ**柔軟な設定**
 - 研究データの**保存** (「大学」のデータガバナンス)
 - **保存前** : PI, グループメンバーによる適切な**編集/アクセス権**
 - **保存後 (ニーズ)** :
 - 機関の研究データ倫理責任者 (**部局長など**) への**アクセス権**の付与と制御
 - PI, グループメンバーの**編集不可**
 - **アクセス権付与者**の移行
 - 研究データの**利活用** (「研究室」のデータガバナンス)
 - (ニーズ) **加入者, 離籍者**の編集/アクセス権

(課題3) DMPの整合性・移植性・実効性

・DMP作成の主要目的：

- ・研究グループの**メンバーが迷わず行動できる**こと
(グループのポリシーを作成し共有する)



・計画時（ニーズ）

- ・PIが作成するDMPが大学ガイドラインと整合すること **(整合性)**
- ・大学のガイドラインで規程されない範囲のグループポリシーをPIが定めること **(整合性)**

・計画後（ニーズ）

- ・作成したDMPを助成機関のDMPに
(可能な限り) 流用できること **(移植性)**
- ・作成したDMPに沿った研究データ管理の遂行をPIが把握できること **(実効性)**

